

平成28年度図書館事業評価結果について

河内長野市立図書館（図書館）では、「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」（平成24年12月19日文部科学省告示）に基づき、図書館サービスその他図書館運営の維持・向上を図るため平成26年度から図書館事業評価を行っています。平成28年度の図書館事業評価結果について、取りまとめましたので公表します。

図書館は、平成26年2月15日付け河内長野市図書館協議会（図書館協議会）の答申を受け「河内長野市立図書館の事業の実施等に関する基本的な運営の方針」（基本的運営方針）を平成26年3月31日付けで決めました。平成26年度から基本的運営方針に基づき図書館サービスその他図書館の運営に関する指標を選定、指標に係る目標を設定するとともに、年度毎に事業計画を策定し、目標及び事業計画の達成状況等に関し自己点検及び評価を実施、その結果を「河内長野市立図書館事業評価」として公表します。

1. 点検及び評価の目的

- ・ 基本的運営方針に基づいた運営がなされていることを確保し、事業水準の維持・向上を図ります。
- ・ 点検及び評価は各年度の事業計画に対し実施します。
- ・ 点検及び評価実施結果は速やかに公表します。

2. 評価の方法等

基本的運営方針に基づき策定した事業計画の達成状況を指標並びに指標に係る目標等により3段階の評価基準で点検・評価を実施します。また、図書館協議会に達成状況等評価（総評）を得ます。

実績は1月末現在の数値に3月末までの推計を含めて算出します。

- ・ 評価基準（端数切捨て）
A…達成した（90%以上） B…ほぼ達成した（89%～61%）
C…達成できなかった（60%以下）

河内長野市立図書館の事業の実施等に関する基本的な運営の方針

図書館法に基づき、誰もが気軽に安心して利用できる市民生活に役立つ図書館をめざして、市民の皆さんとともに積極的な図書館運営を進めるため、河内長野市立図書館の事業の実施等に関する基本的な運営の方針をつぎのとおり定めます。

- ・ 図書館機能の充実を目的に児童サービスやレファレンスサービスを始めとする各種サービスの向上を図ります。
- ・ 「読書のまち河内長野」実現を目的に図書館や公民館図書室の資料を整備充実し、その利用を促進します。
- ・ 郷土歴史資料や行政資料の収集保存を進め、その普及啓発と活用を図ります。
- ・ 読書活動を推進し、子どもたちや市民の読書習慣の定着化を図ります。
- ・ 図書館を利用することで市民自らの課題が解決できるよう、図書館資料の活用を促進します。
- ・ 市民の協力を得てより良い図書館サービスを提供するため、ボランティア活動の機会、場所の提供やボランティア講座の実施に努めます。
- ・ 図書館司書及びその他の職員の資質・能力の向上を図るため、継続的・計画的な研修の実施等に努めます。
- ・ 安全で安心な図書館の読書環境を維持します。

平成26年3月31日
河内長野市立図書館

平成28年度河内長野市立図書館事業評価結果

1. 実績、自己評価、自己評価説明（点検）

- ① 市民の資料要求に応え、さらにその要求を広め高めて行くため、良質な資料を収集・提供します。

指標…入館者数、貸出冊数、大活字本、録音図書

目標…入館者数 53万人

貸出冊数 100万冊

大活字本 前年2,306冊を70冊更新

録音図書 前年1,016タイトルを35タイトル更新

実績…入館者数 475,000人

貸出冊数 950,000冊

大活字本 前年2,306冊を123冊更新

録音図書 前年1,016タイトルを53タイトル更新

◎自己評価 入館者数B、貸出冊数A、大活字本A、録音図書A

【自己評価説明（点検）】

入館者数は、目標をほぼ達成（89％）していることから自己評価をBとしました。インターネットでの予約や公民館図書室での受取りの増加、市内3駅に設置のブックポストでの返却などの非来館サービスの定着が、図書館の入館者数減少に影響していることがうかがえます。今後とも図書館に多数来館していただけるよう魅力ある良質な資料構成を目指して、資料の更新と充実が必要と考えています。

貸出冊数は、目標を達成（95％）していることから自己評価をAとしました。図書館内に新たに魅力あるコーナーとして「大人向けの児童書コーナー」を7月から設置するほか、貸出増加のための細かい工夫は行っています。しかし、入館者の減少に伴い貸出も減少傾向にあり、今後は団体貸出をより一層増やすなどの方策も検討していきます。

大活字本の整備は、目標を達成（175％）していることから自己評価をAとしました。このほか長寿ふれあい基金にて、高齢者向け紙芝居104点も購入し、点字録音図書コーナー内にいきいき健康コーナーとして新たに設置しました。

録音図書の整備は、目標を達成（151％）していることから自己評価をAとしました。53タイトルのうち、15タイトル（CD7タイトル、デジター8タイトル）を長寿ふれあい基金から充当しました。

これらの新たな資料が活用されるよう PR や、高齢者施設などへの団体貸出しをすすめていきます。

- ② 地域文庫、幼稚園・保育所及び放課後児童会等への団体貸出の利用を促進するため、資料集配送を継続実施します。

指標…配送件数、配送冊数

目標…配送件数	170件	実績…配送件数	250件
配送冊数	8,000冊	配送冊数	10,800冊

◎自己評価 配送件数A、配送冊数A

【自己評価説明（点検）】

目標の配送件数については147%、配送冊数については135%を達成していることから自己評価をAとしました。

増加の要因としては、放課後児童会への配送回数の増加によって冊数が増加したと考えられます。今後は、子どもたちの読書環境が整えられるよう特に小学校・中学校への配送数が増加するように学校、学校図書館司書との連携をより強化する必要があります。

- ③ 市民の身近な施設としてのサービス機能の充実を図るため、年始特別開館の継続実施（1月2日・3日）など利便性の向上に努めます。

指標…特別開館入館者数（2日間合計）

図書館年度間開館日数、図書館年度間開館時間数（年度合計）

目標…特別開館入館者数（2日間合計）	1,800名
図書館年度間開館日数	332日
図書館年度間開館時間数	3,479.0時間
実績…特別開館入館者数（2日間合計）	1,735名
図書館年度間開館日数	332日
図書館年度間開館時間数	3,479.0時間

◎自己評価 各指標ともA

【自己評価説明（点検）】

各指標とも目標の90%以上を達成していることから自己評価をAとしました。

年始特別開館については、平成27年度（1,802名）を67名下回る1,735名となりました。

また蔵書点検期間を平成26年度以降は10日間から8日間とし、開館日を2日間拡大しています。

- ④ メールマガジンの発信やレファレンスデータベースの公開など IT を活用した図書館サービス機能の充実をすすめます。

指標…レファレンスデータベースの公開件数、オンラインデータベース利用者数、
W I - F I スポットの設置

目標…レファレンスデータベースの公開 前年度末 46 件を 12 件増
オンラインデータベース利用者数 300 名
W I - F I スポットの設置

実績…レファレンスデータベースの公開 前年度末 46 件を 12 件増
オンラインデータベース利用者数 310 名
平成 28 年 6 月 1 日 W I - F I スポットの設置

◎自己評価 各指標とも A

【自己評価説明（点検）】

各指標とも目標の 100% を達成していることから自己評価を A としました。

今後もレファレンスデータベースの公開事例を積み上げることによって、利用者の利便性の向上に努めます。

オンラインデータベースの利用者層の広がりは見られており、今後ともレファレンスなどの機会をとらえて、より活用されるよう PR を行います。

W I - F I スポットを平成 28 年 6 月から設置しており、1 月末現在の登録者数は 291 人、3 月末 350 人の見込みです。

- ⑤ 市内全域への図書館サービス提供のため、図書館、公民館や自動車文庫等の全体の蔵書構成を考えた資料収集を行います。

指標…図書館と公民館との相互貸借冊数

公民館図書室、自動車文庫の蔵書整備

リサイクル本をコミュニティセンター等へ配備

目標…図書館と公民館との相互貸借冊数 50,000 冊

公民館図書室の蔵書整備 前年 61,366 冊を 1,100 冊更新

自動車文庫の蔵書整備 前年 18,154 冊を 500 冊更新

リサイクル本をコミュニティセンター等へ配備（3 箇所から 1 箇所増）

実績…図書館と公民館との相互貸借冊数 45,319 冊

公民館図書室の蔵書整備 前年 61,366 冊を 1,100 冊更新

自動車文庫の蔵書整備 前年 18,154 冊を 500 冊更新

リサイクル本を公園緑化協会へ配備（3 箇所から 1 箇所増）

◎自己評価 各指標とも A

【自己評価説明（点検）】

図書館と公民館との相互貸借冊数について、目標を達成（107%）している

ことから自己評価をAとしました。

予約資料の受取館を図書館から最寄りの公民館図書室に替えられる方が増え、図書館ネットワークの利便性が市民へ浸透してきています。

公民館図書室の蔵書整備について、目標を達成（100%）していることから自己評価をAとしました。

今後とも魅力ある公民館図書室の蔵書を整備し、図書館ネットワークの利便性を高めていきます。

自動車文庫の蔵書整備について、目標を達成（100%）していることから自己評価をAとしました。

今後とも魅力ある自動車文庫の蔵書を整備し、図書館ネットワークの利便性を高めていきます。

リサイクル本をコミュニティセンター等へ配備について目標を達成（100%）していることから自己評価をAとしました。

地域での読書の振興や交流支援のため身近な図書コーナーを設置して参ります。

⑥ 郷土歴史資料の普及啓発と活用を図るため、検索ツールの整備や関連講座及び資料の展示を行うとともに保存修復を行います。

指標…検索ツールの整備、開催講座数、講座関連資料の展示、保存修復、講座での出前貸出

目標…年度末までに検索ツールの整備

開催講座数 6 講座

講座関連資料の展示 5 回

保存修復 3 点

講座での出前貸出 14 回

実績…年度末までに検索ツールの整備 未完了 ◎自己評価 C

開催講座数 7 講座 A

講座関連資料の展示 5 回 A

保存修復 3 点 A

講座での出前貸出 15 回 A

【自己評価説明（点検）】

年度末までに検索ツールの整備について、目標を未達成のため、自己評価をCとしました。今後は公開指針や目録を作成し、郷土資料のデータ公開をすすめ、郷土歴史資料の普及啓発と活用を図っていきます。

開催講座数、講座関連資料の展示について、目標を達成（講座数116%、展示数100%）していることから自己評価をAとしました。

郷土歴史資料の普及啓発と活用を図るため古文書講座（初歩の初歩3コマ・入門

編3コマ)各1講座、図書館歴史講座2講座(計2コマ)、文化遺産講座2講座(計6コマ)、中高生のための考古学・古文書入門(1コマ)を開催。各講座の満足度は80%以上でした。

関係資料として「円頭柄頭大刀」「鉄鍬」「昔のお金」「鑑札と氏子札」「大和日記」を展示しました。

保存修復について、目標を達成(100%)していることから自己評価をAとしました。修復後の資料は図書館内に展示し、郷土歴史資料の普及啓発と活用を図っていきます。

講座での出前貸出について、目標を達成(107%)していることから自己評価をAとしました。図書館資料の活用として、講座会場での出前貸出(22冊)を実施しました。

- ⑦ 生涯学習機会の拡大のため、他の公立図書館等との連携を一層図り、広域相互利用を実施します。

指標…対象自治体数

目標…対象自治体数 14自治体

実績…対象自治体数 14自治体

◎自己評価 A

【自己評価説明(点検)】

目標を達成(100%)していることから自己評価をAとしました。

市民の生涯学習機会を拡大するため今後とも広域相互利用を実施します。

(14自治体:大阪市、東大阪市、八尾市、松原市、柏原市、羽曳野市、藤井寺市、富田林市、大阪狭山市、太子町、河南町、千早赤阪村、橋本市、五條市)

また、平成25年度、平成26年度と広域相互利用を締結している隣接市の図書館(富田林市)と連携して「二市図書館連携講座」を開催。平成27年度は大阪狭山市も含め「三市図書館連携講座」として開催し、学習機会を拡大しました。

平成28年度は、三市立図書館を紹介するパンフレットを作成し、交流市民の拡大に努めました。

- ⑧ 「河内長野市第3次子ども読書活動推進計画」(平成28年度～平成32年度)に基づき関係機関との連携を図りながら子どもの読書活動を推進します。

指標…18歳以下登録者率、ブックリストの作成・配布

小学生向けパスファインダー(情報の調べ方ガイド)作成

中・高校生向けパスファインダー作成

目標…18歳以下登録者率 40%

ブックリストを毎月発行、市内小・中・高等学校や8公民館へ配布

小学生向けパスファインダー 3テーマ作成

中・高校生向けパスファインダー 3テーマ作成
実績…18歳以下登録者率 41.8%
ブックリストを毎月発行、市内小・中・高等学校や8公民館へ配布
小学生向けパスファインダー 3テーマ作成
中・高校生向けパスファインダー 3テーマ作成

◎自己評価 各指標ともA

【自己評価説明（点検）】

18歳以下登録者率について、目標を達成（104%）していることから自己評価をAとしました。

4か月児健診での「ようこそほんといっしょ」の事業で出前登録・貸出しを行ったほか、学校向け「えほんのひろば」巡回の継続実施や学校図書館が実施する「読書ノート」への参画、小学校から公民館施設見学の際に公民館図書室で利用者カードの新規登録実施など子どもの読書活動を促進し、18歳以下の登録者数の維持・向上に取り組みました。

ブックリストの作成・配布について、目標を達成（100%）していることから自己評価をAとしました。

今後も引き続き、子どもの読書活動を推進するため学校ほか関係機関を連携してブックリストを作成・配布し利用者教育に活用していきます。

小学生向けパスファインダー（情報の調べ方ガイド）、中・高校生向けパスファインダー作成とも、目標を達成（100%）していることから自己評価をAとしました。

今後も引き続き、対象に応じたパスファインダー（情報の調べ方ガイド）を作成し、利用者教育に活用していきます。

⑨ 子どもたちや市民の読書活動の推進を図るため、地域、学校やボランティア等と連携し、おはなし会などを実施します。

指標…おはなし会等開催回数、おはなし会等参加者数

目標…おはなし会、おはなしウォッチング、クリスマス会、夏休みおはなし会

合計開催回数89回 合計参加者数 750名

実績…おはなし会、おはなしウォッチング、クリスマス会、夏休みおはなし会

合計開催回数89回 合計参加者数 868名

◎自己評価 各指標ともA

【自己評価説明（点検）】

目標を達成（回数100%、参加者数115%）していることから自己評価をAとしました。

おはなし会の開催時間を一部変更したほか、ようこそほんといっしょ事業で

のPR、ミニコミ誌や関係機関（あいっく）との連携を通じて参加人数の向上に取り組みました。

- ⑩ 子どもたちに絵本に親しむ機会を提供するため、学校や放課後児童会などで「えほんのひろば」の巡回展を実施します。

指標…参加者数、うち異年齢交流参加者数

目標…参加者数 4,000人

うち異年齢交流参加者数 500人

実績…参加者数 5,600人

うち異年齢交流参加者数 1,851人

◎自己評価 各指標ともA

【自己評価説明（点検）】

目標を達成（参加者数140%、異年齢交流参加者数370%）していることから自己評価をAとしました。

「えほんのひろば」を市内の小学校13校、中学校3校で実施しました。

このほかにも、美加の台学園祭439人（1回）、大阪暁光高校（ちよだ保育園）85人（1回）、読みメン応援「父と子のえほんのひろば」320人（5回）の異年齢交流で、えほんのひろばを出展しました。

今後とも運営方法やプログラム内容について検討を加えながら、学校関係者の協力を得るなど、より拡大して継続できるよう努めます。

- ⑪ 図書館資料の利用を促進するため、生活に役立つ図書館講座や児童を対象とした利用者教育講座（資料の探し方等）を開催します。

指標…開催講座数、参加者数

目標…開催講座数 10講座

参加者数 130人

実績…開催講座数 12講座

参加者数 270人

◎自己評価 各指標ともA

【自己評価説明（点検）】

目標を達成（講座数120%、参加者数207%）していることから自己評価をAとしました。

（児童向け）

図書館マスター4講座（小学生3年生～6年生対象）

図書館探検ブック配布イベント1日（小学生対象）

※図書館探検ブックは当日配付51冊、夏休み期間中配付合計500冊

（一般向け）

データベース（法情報、新聞記事検索）講習会 2 講座

生活に役立つ図書館講座（乳がん、教育費、創業、英会話） 4 講座

三市図書館連携事業（野菜づくりのコツと裏ワザ） 1 講座

今後とも図書館資料の利用促進のため、地域や近隣市の図書館と連携を取りながら様々なアプローチの講座を開催します。

⑫ ボランティア活動の充実を支援するため、読み聞かせボランティア講座やスキルアップ講座を実施します。

指標…開催講座数

目標…開催講座数 3 講座（ 9 日）

実績…開催講座数 4 講座（10 日）

◎自己評価 A

【自己評価説明（点検）】

目標を達成（111%）していることから自己評価をAとしました。

① すぐに役立つ読み聞かせボランティア講座（5 回）」

② 読み聞かせボランティア フォローアップ講座（1 回）」

③ スキルアップ講座「世界のわらべうたにみる子どものコスモロジー（3 回）」

④ スキルアップ講座「ことばとリズムの絵本を考える（1 回）」

以上 4 講座（10 回）を開催

図書館と協働して地域や学校での読書推進を担う人材を育成するため、引き続きボランティア活動の充実を支援します。

⑬ 市民の理解と協力を得て図書館の良好な読書環境の維持、利用マナーの向上を図ります。

指標…マナー向上キャンペーンの実施回数

目標…マナー向上キャンペーンの実施回数 2 回

実績…マナー向上キャンペーンの実施回数 2 回

◎自己評価 A

【自己評価説明（点検）】

目標を達成（100%）していることから自己評価をAとしました。

資料の水漏れ防止キャンペーン（貸出時に声かけやチラシ配付）を実施しました。

⑭ 図書館司書及びその他の職員の資質・能力の向上を図るため、継続的・計画的な研修の実施等に努めます。

・文部科学省主催 地区別研修（近畿）

- ・近畿公共図書館協議会主催研修
- ・大阪府教育委員会主催研修（司書セミナー）

指標…研修（館外）数、研修参加者数、利用者の職員対応満足度

目標…研修（館外）数	9講座
研修参加者数	22名（延べ）
利用者の職員対応満足度	5段階で平均4以上（図書館アンケート）
実績…研修（館外）数	12講座
研修参加者数	17名（延べ）
利用者の職員対応満足度	5段階で平均4.5（図書館アンケート）

◎自己評価 研修（館外）数A、研修参加者数B、利用者の職員対応満足度A

【自己評価説明（点検）】

目標に対し、研修数は133%達成・自己評価A、参加者数は77%達成・自己評価B、利用者の職員対応満足度では112%を達成・自己評価をAとしました。司書及びその他の職員の資質・能力の向上を図るため継続的・計画的な研修の実施等に努めます。

- ・文部科学省主催 地区別研修（近畿） 4講座 4人受講
- ・近畿公共図書館協議会主催研修 2講座 2人受講
- ・大阪公共図書館協会主催研修（司書セミナー） 5講座 11人受講

図書館アンケートによる利用者の職員対応満足度は、5段階で平均4.5であり、さらに職員の接遇の向上に努めます。

⑮ 危機管理マニュアルの整備、職員に対して防火訓練をはじめAED講習や防犯講習等を実施します。

指標…防火訓練等実施回数

目標…防火訓練等実施回数 5回

実績…防火訓練等実施回数 6回

◎自己評価 A

【自己評価説明（点検）】

目標を達成（120%）していることから自己評価をAとしました。

複合施設にあることを踏まえ関係機関との連携を図り利用者の安全安心に努めます。

実施内容（実施日）

- ・救命講習 平成28年7月5日
- ・大阪880万人訓練 予行演習 平成28年8月2日
- ・大阪880万人訓練職員訓練 平成28年9月5日
- ・防犯講習 平成28年10月4日
- ・自衛消防訓練 平成28年11月14日、平成29年2月13日

2. 図書館協議会による達成状況等評価（総評）

図書館事業に係る図書館の自己評価並びに自己評価説明（点検）を踏まえ実施した達成状況等評価（総評）は以下のとおりです。

平成29年3月31日 河内長野市図書館協議会 会長 佐藤 敏江

記

1. 事業計画に基づき設定した目標を概ね達成している。今後とも事業の適正化、図書館サービスの向上に努められたい。
2. 自己評価において「B」「C」となったものについては、来年度において評価が「A」となるように努めるとともに、目標設定が実現及び持続可能なものであるかを検討し、次年度の目標設定をされたい。また、達成度100%を超えているものについて、よりサービスの向上となるよう目標設定を再考されたい。
3. 設定されている指標及び目標が事業の成果を的確に評価できているものであるか、状況の変化に対応できているかを含めて検討していただきたい。
4. 総評並びに下記に示す各委員からの意見を参考に図書館事業の充実に努められたい。

【図書館協議会委員の意見】

図書館事業に係る図書館協議会委員の意見は次のとおりです。（図書館協議会会議での事業に係る意見の要旨を掲載）

- 1・・・① 指標の「入館者数」は人口も減っており、「良質な資料を収集・提供します」という事業計画の指標として数字で設定するのが困難なところもある。人口減や個々人の貸出冊数の変化などの要因が複雑に絡まり、数字だけで捉えるのではじり貧となります。
- ⑥ 地域情報に関しては、個人情報や明治時代ぐらいだと現代にたどれてしまいます、閲覧に出していいものか難しい部分があります。郷土歴史資料の公開には、個人情報など制限はある程度必要です。公開する画像や内容を決めるのも大事で、データベースの構築には何年間かの蓄積が必要なので、長期計画にしてはどうか。
- ⑦ 広域相互利用で、他市のサービスを利用することで、わが市のサービスも見えてくる。それぞれの自治体の収集方針、保存方針があると思いますが、新聞や縮刷版など実際に近隣市で分担している例を紹介してはどうか。

- ⑨ 指標「おはなし会」の開催時間帯については、開催のパターンをくずして、試験的に土曜日や日曜日にお父さんへのPRとしてやってみてはどうか。お休みの日だとお父さんが子供をつれて出て、その間にお母さんが家事をするというパターンが増えていきますね。急には無理かもしれませんが、いろいろな人が来る時間帯に試験的に行うという事も必要ではないでしょうか。固定するまでに第1・2週と第3・4週で時間帯を変えるなど、手探りで日にちを変えてみるのも方法ではないでしょうか。
- ⑫ ボランティア団体に加入して実際の活動にいらなくても、ボランティア講座によって、基本的な図書館やおはなし会への理解度が広がった、おはなし会へ橋渡しをする方が増えたという効果はあります。せっかく説明欄があるなら、その辺りも記入されたらよいですね。たとえば対面朗読については、基礎が必要です。おはなし会でも子どもの発達段階にあったものがなくて、みんな無造作にやっているようで深いものがあります。その深さがわかったという事だけでも違うのではないかと思います。

- 2・・・① 指標の入館者数について、インターネット予約等、必ずしも入館しなくても利用できるという状況があります。河内長野市の人口減の影響の可能性はあるだろうし、蔵書の揃え方がニーズに一致していないかもしれない。いろいろな要因をわかる範囲で分析していけば、よりニーズにあった利用につながるのではないのでしょうか。レファレンス利用など多角的に判断できるような工夫が必要だと考えます。インターネットでの予約が定着しているようなら、「図書館ホームページへのアクセス件数」も指標の項目に入れてはどうか。多角的に判断できる工夫を。なぜ減ったのかなかなか原因がわからなくても、目的に応じた手段・工夫・PRをどうするのか、少しずつ年度ごとに改善することが大事です。

今年度の目標に対し、実績が出ました。それが前年度より少なかったのはなぜなのか、例えば周知徹底が足りなかったからか、人口減からか、一人あたりの貸出冊数を変更したのか、など再分析が必要です。目標とともに分析が必要だと考えます。その年度特有の事情があるかもしれません。例えば、周知徹底がいたので来年度このような取り組みに力をいれようといったことが必要です。その差異がなぜ出たのかについて、原因を分析しこのような手段で改善するという事が必要です。原因はわからないかもしれませんが、このような手段でやってみようという工夫もいります。そういう分析をもっとやって、年度ごとに改善する、それをやるのが事業評価です。それがPDCAサイクル

ルを回すということです。

- ② 団体貸出しの利用促進のため、全ての地域文庫、幼稚園、保育所、放課後児童会、高齢者施設に団体登録してもらってはどうか。動機づけが大事ではないか。子どもたちが育っていくことで、貸出しも伸びていくことが期待できる。
- ⑥ 指標の「年度末までに検索ツールの整備」はそもそも年度ごとに評価するのが難しい項目ではないでしょうか。公開の指針や目録の整備に時間がかかるなら、単年度計画ではなく、長期目標にしてはどうか。
- ⑦ 自治体連携はいいことですが、それぞれの図書館の特徴・強みを生かせないでしょうか。相互補完できるような形、この分野は河内長野が力をいれて充実させる等されてはいかがでしょうか。同じような図書館でただ連携しても実質効果がない可能性もあります。もちろん共通部分もありながら、予算的にそれぞれの特徴分野を重点的に引き出し、連携のメリットを生かすような話し合いをしていかなければならないと思います。どこの市も予算の制約のある中で図書を充実していくには、それぞれの図書館が特徴のある分野の収集に重点を置いて、相互に補完できるようなメリットを引き出す連携の話し合いも今後していくべきではないか。
- ⑨ 土日の方が忙しいという働く世代も多いです。おはなし会の曜日、時間の設定は、人によって参加できる時間帯がさまざまなので、多角的に、いろんな要素を考えたうえで日時を決めるしかなく、その上でどうしても来れない場合もありますね。

- 3 . . . ① 指標「入館者数」は、実利用者数ととらえてはどうか。①の指標「貸出冊数」はA評価ではあるが、昨年より実績が減っている。先の目標はどうするのか。
- ② 団体貸出について、すべての私立幼稚園等の団体の登録は終わっていますか。前回からの話もあるが、そのあたりに向けて全体的な取り組みがいのではないでしょうか。すべての園に声をかけて登録、利用して貰う機会を作ってほしいです。子どもたちが本を読む機会、その習慣づけが大人になっても本を読む習慣につながるのではないのでしょうか。今、小学校で5分間本を読むといった読書タイムがあります。そういった活動を通じて子どもたちへ読書経験を積んでもらい、その子どもたちが育っていくことにより将来の利用につながるのではないのでしょうか。そのような視点で団体貸出を充実させるなど目を向ける必要もあります。種まきのようなことも必要です。
 - ⑤ 指標「リサイクル本をコミュニティセンター等へ配備」が1月末で配備予定や⑧の指標「小学生向けパスファインダー（情報の調べ方ガイ

ド)」「中・高生向けパスファインダー（情報の調べ方ガイド）」が1月末で作成中となっている。どのくらいの事務量かわからないけど、ほとんど年度は終わりなので何月に完成予定などわかればいいと思います。次年度の目標の立て方について、せっかくならもう少し早く配備して、利用できるようにしてほしいと思います。

- ⑥「年度末までに検索ツールの整備」という指標では、できあがるのかなととらえられます。整備まで時間がかかるなら「検討」など別の文言の方がよいのではないのでしょうか。
- ⑦ 指標が「対象自治体数」だけでは、他市からの利用者数が見えない。14自治体が集まってどのようなメリットがあったのかなどわかればいいと思います。
- ⑩ えほんのひろばなどの回数を増やし親子と本をつなげていってほしい。

- 4・・・⑨ 指標内容の「おはなしウォッチング、夏休みおはなし会など」は大勢の子どもたちが集まっている。一方、図書館での定期的なおはなし会ではどんどん参加人数が増えていますか。

開催曜日、時間ごとの人数を知りたい。

働いていない保護者は午前中を希望されるし、働きだすと日曜日を希望される。あいつくに土曜日に行くとお父さんが多い。

お母さんの都合が変わってきていると感じます。少子化で、保護者は手厚く教育したいという気持ちがある中、水曜日の開催について、この何年間、曜日や時間帯等変更のない中で人数について増えているのですか。

あと、昨年言わせていただいたことで、あいつくと提携されたことはよかったことですが、土曜日に仕事で自分があいつくにいくと、父親が子どもを連れて来ている方が多いです。土曜日に2・3歳児のおはなし会をして、あいつくから土曜日に図書館に行ってくださいねといった話があれば、図書館で父親と子どもの利用が増えるなど考えられ、図書館になかなか行かない世代の敷居を低くしていけるのではないかと思います。

- 5・・・⑨ 2・3歳児のおはなし会の時間帯変更について、午前中にならできるのかと思いますが、たとえば土日や夕方だと、みんな家庭との両立をしながらのボランティアなので出るのが難しくなるのではと思います。また、土曜日の小学生のおはなし会について、学校が土曜日休みになった途端参加者が激減しました。公民館で開催していたおはなし会では50名くらい来ていたのが数名となりました。土曜日学校がなくなった分、習い事などが増えているのかと思います。曜日や時間帯につ

いてはいつも考えるが、難しいと思います。日曜午前の開催でも人数は少ないです。0歳のときは育児休業があるので参加されますが、それが終わると来なくなると思います。社会情勢が図書館活動に影響しているのも感じています。

- ⑫ 平成28年度の「すぐに役立つ読み聞かせボランティア講座」に関しては、退職者が増える中、第二の人生で読み聞かせに関心を持つ方が増え、講座定員20名に対し17名来られました。その中で連絡会に入って活動されようとする方はまだいません。ボランティアを増やすことも目的の一つですが、講座に協力する連絡会としては、朝読書などにボランティアで行く方が何の研修も基礎知識もなく学校で募集され、いきなり読み聞かせをしているという事実がありますが、「読み聞かせ」は本をよむことなら誰でもできるわけではなく、子どもに伝えるための技術等も必要なので、活動に足を踏み入れたら今せめてこれだけは知識として学んでいただけたらという気持ちで講座を実施しています。

ボランティア団体に加入して活動する人は毎年なかなか増えませんが、これを機会に「自分には無理だ、こんなに奥が深いと知らなかった」と感じた方が、お孫さんとおはなし会に来るという事もあり、何も効果がないということはないと感じています。

- 6・・・① 貸出冊数A評価についてですが、今年の結果だけであって、去年の貸出冊数100万冊よりだいぶ減っていることについては、A評価のままでもいいのでしょうか。目標に対する結果だけではなく、昨年度より減っているのはなぜか原因等を検討することが、今後につながるのではと考えます。人口減で借りる人が少なくなる可能性があるのは仕方ないと思います。しかし去年は達成できています。去年より減っているのはなぜか、去年は達成しているのだからその上をいかないと、という疑問もあります。

私たちの世代は、図書館を利用している人がなかなか少ないです。そういう人々を掘り起し、入館者も貸出冊数も増える、そのような対策をたてていかなければならないと思います。インターネット予約などの周知も少ないのではないのでしょうか。図書館からの宣伝もどれだけやっているのですか。予算もあり難しいですが、活性化する方法を考えなければならぬと考えます。

例えば、いまPTAの役員をしているが、PTAの保護者に周知するなど、もっと方法はあるのではないのでしょうか。図書館だよりなども届きますが、市民にもっと身近に感じられるようにすればと思います。市民も意識しないといけないうちかもしれませんが、市民はよいものがあるというのを知らないと感じます。

自分のようにあまり図書館を利用しない者は、インターネットで予約できることやいいものがあることを知らない。もっと図書館が身近に感じられるように呼び込む対策をしたら、活性化できる余地があるのではないか。

私はあまり本を読まなかったのですが、読むきっかけが面白い本に出会った事でした。司馬遼太郎を読んで興味を持ち始めました。歴史小説に出てくる場所に行ってみよう、と小説の舞台に会社の同僚と行ってみて、面白いと思いました。河内長野は楠正成だなど、千早城やいろいろな場所に行き本の世界を感じ、面白さを感じました。最近では、百田直樹の小説を読みました。映画では中身が違います。子どもにも、小説からドラマや映画になったら違うな、読んでみたらと伝えるなどしています。そういう事にもっと早く気付けばよかったと思います。

- 7 . . . ⑫ボランティア活動の充実について、読み聞かせ講座等の回数は達成しています。事情を知らない人が見たら話し手のボランティアさんが増えているのかなと思いますが、実際には個人の事情もあり、活動を継続できる方は少ないと思います。111%の達成の中で何人が新たに実質活動できている、という数字が欲しいです。

細かい統計よりも、自己評価説明の中にボランティア登録何名などと付け加えできればいいと考えます。おはなし会のボランティアさんも当番などで大変だと思っています。